大正八年

横須賀鎮守府　播磨要港部定關係記錄

0378

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

0379

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

目次

一、經過概要
二、集合成績表
三、減點事項一覽表
四、故障一覽表
五、檢定ニ關スル意見
六、成績記録
(一)大掃海具一號
第八驅逐隊
横須賀防備隊
(二)大掃海具二號
第八驅逐隊
横須賀防備隊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

大正八年
横須賀鎮守府

掃海檢定經過概要

一、作業ノ實施經過

期日	使用掃海面	檢定作業區分	掃海艦艇掃海班別	所屬
九月二十三日	第一	一号	臨	第八驅逐隊
同	第一	一号	曙	同
同	第二	一号	陽炎	同
同	第二	一号（處分作業ヲ）	吹雪	同
九月二十三日	第一	一号	有明	同
同	第一	一号（處分作業）	吹雪	同
同	第二	一号	江之島丸第一班	横須賀防備隊
同	第二	一号（處分作業ヲ）	江之島丸第二班	同
九月二十六日	第一	二号	臨（甲）	第八驅逐隊
			陽炎（乙）	同

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

九月二十六日	第一	二号	臨(甲)	第八驅逐隊
			曙(乙)	同
九月二十七日	第一	二号	吹雪(甲)	同
		(事故ノ為ノ處分作業)	有明(乙)	同
同	第二	二号	第一震天第二班(甲)	横須賀防備隊
			江之島丸第三班(乙)	同
九月二十九日	第一	二号	吹雪(甲)	第八驅逐隊
		(處分作業)	有明(乙)	同
同	第一	二号	第一震天第一班(甲)	横須賀防備隊
			江之島丸第三班(乙)	同
十月一日	第一	一号	江之島丸第三班	同
同	第一	一号(處分作業)	江之島丸第二班	同

(備考) 九月二十七日ニ於ケル事故ハ汽船掃海面ニ進入シ掃海對艦

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ノ間ヲ航過シタル為メ両艦間隔伸長シ運動不可能ニ至リシヲ以テ撤定ヲ中止シタルモノナリ

二、成績

(一) 掃海艦艇掃海班別成績

得点百分比 ＼ 基本部	第八驅逐隊	横須賀防備隊
一〇〇	〇	〇
九〇以上	三	二
八〇以上	〇	〇
七〇以上	二	一

(二) 基本部總得点百分比

第八驅逐隊　八七、三五

横須賀防備隊　八六、七五

(終)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

別表

大正八年横須賀鎮守府掃海検定集合成績表

基本部名	第八驅逐隊									記事
艦名又ハ班名	朧	曙	陽炎	吹雪	有明					
艦長又ハ分隊長 官氏名	海軍少佐 力石敏三郎	海軍大尉 中田緑	海軍大尉 西川速水	海軍大尉 鈴木清	海軍大尉 山本弘毅					
首席者 官氏名	三曹 中津川久吉	一曹 川原田大助	一曹 山田雅雄	一曹 宮山靖玄	三曹 松本三良					
成績順序	三	二	一	五	四					
得點區分 装備時間 一號 一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇					
得點區分 装備時間 二號 一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇					
得點區分 取扱 一號 三〇	三〇	三〇	三〇	一一	一七					
得點區分 取扱 二號 三〇	二七、五	三〇	三〇	三〇	三〇					
得點區分 投入 一號 一〇	一〇	一〇	一〇	〇	一〇					
得點區分 投入 二號 一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇					
得點區分 深度 一號 一〇	一〇	八	一〇	一〇	一〇					
得點區分 深度 二號 一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇					
得點區分 掃海幅員 一號 五	五	五	五	五	五					
得點區分 掃海幅員 二號 五	五	五	五	五	五					
得點區分 揚收 一號 五	五	五	五	五	五					
得點區分 揚收 二號 五	五	五	五	五	五					
得點區分 處分 一號 三〇	三〇	三〇	三〇	一〇	〇					
得點區分 處分 二號 三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇					
計 二〇〇	187.5	188	190	151	157					
百分比	93.75	94.00	95.00	75.50	78.50					

0386

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

別表

大正八年 横須賀鎮守府 掃海檢定集合成績表

基本部名	艦名又ハ班名	艦長又ハ分隊長官氏名	首席者官氏名	成績順序	得點區分 裝備時間 一號	二號	取扱 一號	二號	投入 一號	二號	深度 一號	二號	掃海幅員 一號	二號	揚收 一號	二號	處分 一號	二號	計	百分比
横須賀防備隊	一	海軍少佐 山本強太	一曹 高橋右門	三	一〇	一〇	一一	二五	一〇	一〇	五	一〇	二五	五	五	五	二〇	三〇	182.5	79.25
	二	海軍大尉 河毛肇	一曹 近藤兼吉	一	一〇	一〇	一七	二五	一〇	一〇	一〇	一〇	五	五	五	五	三〇	三〇	182	91.00
	三	海軍大尉 横倉房吉	二曹 長谷虎吉	二	一〇	一〇	三〇	三〇	一〇	一〇	一〇	一〇	五	五	五	五	一〇	三〇	180	90.00

記事

0387

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

大正八年度横須賀鎮守府掃海検定ニ関スル意見

横須賀防備隊司令太田原達

一、検定実施規程ニ関スル事項

一、検定開始前掃海具分離ノ程度及排列ノ方法ハ別紙事項及ノ覚書ニ於テ説明シアルモ見学ハ之実施ニ関スル細目ト共ニ実施要領ニ詳細想定シ実施規程ニ於テハ其概領ヲ提示スルヲ可ナリト認ム

二、掃海実施ノ方法

(イ) 掃海検定ハ事故ノ為メ時間ヲ要スルコト大ナルヲ以テ必要ナル程度ニ於テ簡単ナルヲ要ス即チ一号共ニ一掃海面ニ就キ一日優ニ二組ヲ実施結了尚委員会ヲ開催シ得ル余裕アルヲ可トス之ガ為メ一号ニ於テハ二千米二号ニアリテハ二千五百米ノ区劃ヨリ投入シ一号ニ於テハ二航過

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

後六角度ノ転舵ヲ行ハシメ續イテ域外ニ設ケタル機雷三個ヲ二航過ヲ以テ處分セシム

二号ニアリテハ二航過ヲ以テ域内ニ敷設シタル機雷三個ヲ

夠捉シ域外指定位置ニ到リ爆薬處分ヲ了シ作業ヲ終了スルモノトス

(ロ)揚收ハ右ノ結果時間ヲ以テ論ゼズ取扱ニ関スル減点標準ニ準リ採点スル様制定ヲ要ス

(ハ)取扱上ノ過誤ヨリ起ル兵器ノ欠損ヲ減点スルヲ可トス

(二)號掃海ニヨリテ処分ヲ了ノ時機ヲ繋維索切断ノ機雷浮出ノ時ト採点標準ニ想程アルモノ実施ニ関スル細目ニハ二分間以上経過後機雷浮出セザルモノハ切断不能ト看做シ云ヘトアリ現用鈕ニテハ一分以上ノ実行及速力ノ変化ヲ必要トスハコトアリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

仍然ニ掃海目的ヲ以テ航路ニ要スル時間ハ一時間トナリ掃海艇ヲ投入シ得ル特機ヨリ之ヲ計測シ最后ニ掃海面ヲ出ヅル迄トス

二、実施要領ニ関スル事項

一、設標及機雷敷設ニ関スル件（第一図参照）

掃海面標識浮標ハ新ニ制定セラルベキ艦艇航路浮標ヲ使用シ模様ハ球形若クハ吹流シトナシ色合ハ白色使用ヲ廃止シ赤白赤、紺黄ヲ使用スルコトヒカ図

仙

大掃海艇一隻用機雷ハ約一線ニ六百米ヲ隔テ

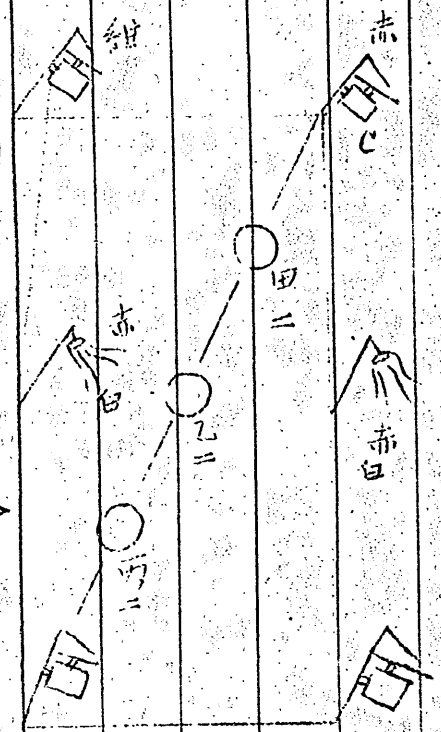
開ク基線ヲ距ルコト四百米位悪ヲ面当トス

大掃海艇二隻用機雷ハ掃海面ノ対角線上角点ヨリ

更ニ等距離ニ敷設スルモトス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第一図



甲一、乙一、丙一　一號甲機雷
甲二、乙二、丙二　二號甲機雷
x、y、z　一號甲機雷引揚浮標
x、y、8　二號甲機雷引揚浮標

A B 基線

C D 例

二、掃海航路圖ノ作成

掃海航路圖ハ掃海面設標位置如何ニ係ラズ敵検定船船ニテ航路圖作成要員隨時之ヲ測得シ得ラルヽ

ナルモノヲ要ス

之ガ為メニハ二台ノ測距儀及一個ノ「ヘロラム」(工上敵告船船部ニアリ)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ヲ用ヰ一分毎ニ標識ノ位及巨離ヲ測リ方眼紙ニ艦位ヲ
点綴スルニアリ
艦艇用羅盤儀ハ操艦目ノ為メ之ヲ備ヘスル必要アリ
又測距儀一台ハ被検定艦艇モヲ供用ニシ度ナシト
認ム
三、兵器改良ニ関スル事項
一掃海鉸ノ受動鉸腕ト受動鉸トヲ締着セル二重仕掛
動ニ割枕ヰキ屈メ仕掛ノ出失ヲ以テ直接要ス
尚現用掃海鉸ハ敷設用ト実用トヲ区別ニ用ヰザレバ
場合ニ不良トナリ切断能力減ズ之ガ為メニアタテ
オシ型鉸ニ新器試用ヲ希望ス
二、二號掃海索ノ銅板鎖ヲ院ニ換雷管導脱ヲ防ク得
バ便益ニシテ之カ為ノ調査装置ヲ採用シ鋼板

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

機雷深深度ニ実行スルトキハ錘量ト水雷罐トハ適当ノ平衡ヲ保続シ掃海中脱スルコト無キト思料ス

三、表示装置ハ二號ニアリテハ鉤掛ニタルトキ直ニ浮出スル構造アル番ヲ以テ使用シタルモノ停止後浮出スルモ可シ

一號用表示装置ノ機能ニ使用セサリシモ確実ナル特限装置ノ調整自由ナルニ便ナリトス

四、操法故障ニ関スル事項

一、意見無シ

五、其他必要ト認ムル事項

一、掃海中ノ旋回圏測定

二號ニ在リテハ軍艦ノ各種能力及速力ニ対スル旋回圏及外国ニ直進スル対艦艇ニ対

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

順応スベキ舵角及速力ヲ測定シ又一隻ニアリテハ艦船ガ
曲頭ニ就ク際ノ特性ニ能率及掃海具ガ之ニ適応シテ
定針シタル時間ヲモ測定シ精密ナル量ノ動要表ヲ
整備スルノ要ヲ認メ掃海ノ計画ニ必要ナルノミナラズ
保安上緊要ナル作業ナリトス
二、大掃海具一隻ヲ実行中機雷ヲ浮出セシムル速力及艦
船ノ切断効果ニ及ボス影響ノ研究
運動量ハ舵量ト速力ノ比率積ナルガ故ニ一定ノ排水
量ヲ有スル船舶ニ於テハ速力ヲ大ニスレバ切断ノ効果
大ナルコトヲ認メタリ又速力大ナルトキハ特殊船ノ為ノ特
殊線ヲ入レ掃海索ニ張力ヲ与ヘ復スルコト容易ナリ
柳モ一隻掃海具ノ切断能力ハ船体ト掃海具トガ
一ノ緊締組織ヲ形成シ鋏ノ前後運動ニ拠リ

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

切断作動ヲ完成セシムルヲナリ故ニ機雷ニ接近シ轉舵スルトキハ掃海索ノ弛緩及左右運動ヲ伴ナヒ其効果ヲ失フコト豫想ヘタリ

殊ニ鋏ノ左右運動ハ繫維索ニ打撃ヲ与ヘ機雷ノ浮上ヲ防害スルコト多シ機雷ノ敷設区域ニ一線上ニアル機雷ノ左右交互ニ切断セントスルガ如キ場合ニ於テハ六百米以上ノ敷設区間ヲ有セザレバ操作困難ナリト認ム

（終）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

横須賀鎮守府附海軍中佐　岡村友治

掃海検定ニ関スル意見

本年度掃海検定ハ掃海関係各員ニ対スル使価検定ノ目的ニ副ヒ実施ノ方法亦概ネ適良ニシテ掃海術ノ発展上効果甚カラサリシト雖当今機雷ノ顕著ナル進運ニ伴ヒ一層ノ進歩ヲ促サンカ為其規模ヲ横大シ且最実際状況ニ近接セシムル方法ヲ以テ戦闘掃海ノ制ヲ設ケ掃海ニ関スル戦闘能力ヲ練磨講究スルノ必要アリト認ムルモ十二蓋掃海ノ能否ト効果ハ去トシテ掃海艦艇指揮官ノ運用操縦ニ対スル使価ノ如何ハ拙ニ帰シ看ス可ト謂フモ敢テ過言ニ非ザルカ故ニ成績ノ審査上重キヲ既掃海面ノ清否並機雷処分ニ置キ以テ掃海能力ノ優劣ヲ査定セハ最適切ナル使価検定法タルヘシナラス又斯術ノ向上ヲ促進ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ルノ一助タルヲ得ヘキナリ戰鬪掃海ハ教育年度後半期ニ於テ一回之ヲ施行シ之レカ實施ノ要領ハ指示掃海面ノ延長ヲ二浬若クハ三浬トシ其間一二回ノ屈曲度ヲ附シ大掃海具二号ハ勿論一号掃海ニアリテモ尚掃海面内ニ無標識機雷ノ敷設シ掃海具ノ長距離曳航ヲ以テ能クヲ考査スルニアリトス而シテ本年度實施ノ掃海檢定ハ裝備搭載入曳航中狀態揚收並處分等ノ作業ヲナシ掃海具ノ取扱法ト處分法ヲ區分シタル爾部ノ檢定法ナルカ故ニ多少ノ修補ト共ニ掃海員各個ノ得程度ヲ考察シ且其ノ技倆ヲ査定スヘキ檢定掃海トシテ適当ナルモナリ檢定掃海ハ毎月又ハ二個月毎ニ一回基本部ニ於テ之ヲ實施シ尚教練掃海成績ヲモ加味シテ教育年度ノ成績ヲ審査シ相当表彰ノ途ヲ講セハ砲術・機雷其他ニ於ケル檢定作業ト均衡ヲ保持シ斯術

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

普及進歩ニ次見スルトコロ亦大ナルヘキヲ信スルモノナリ

終

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

大正八年十月九日

第一駆逐隊司令宮野好二

掃海検定ニ関スル意見

実施規程ニ関スル事項

一、大掃海具一隻、二隻共ニ装備、投入機雷處分ヲ通シ一回トスルコト

理由、實際ニ近カラシムルト共ニ作業ヲ進捗上ニ便ナリ

二、大掃海具一隻、二隻ノ各場合トモ機雷ハ掃海區域内ニ敷設スルコト

理由 前項ニ同シ

三、敷設機雷ヲ表示セサルコト

理由 實際的ナラシムルト同時ニ敵ノ運動法ノ研究

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

動ルニ有効ナリト認ム

四、敷設深度ノ範圍ヲ大ニスルコト

理由、掃海深度ノ研究、艦ノ運動法ノ研究ヲ奬勵スルニ有効ナリト認ム

兵器ニ関スル事項

五、大掃海具ノ弗鋏ヲ改良シ尚鋏数ヲ増スコト

理由、鋏ハ繫維索ノ切断ニ對シ有効ナラサル場合多シ、余リ精密ナル調整ヲ要セサル固定的ノモノニ改良スルヲ得策ナリト信ス、尚ホ尾索ヨリノ機械滑脱ヲ顧慮シ尾索ニモ鋏ヲ設クルノ必要アリ

六、大掃海具ニ弗ノ尾索ニ拘捉錨ヲ附スルコト

理由、無拘捉錨ノ實驗サレト雖検定ノ成績ニ依リテ見ルニ掃海艦ノ大角度方向変換等ニ對シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

拘捉錨ハ大ニ有効ナルカ如シ拘捉錨ヲ有効ナリトセハ最滑り易キ尾索ニモ之ヲ附スルヲ必要ナリト認ム

七、大掃海具ニ那拘捉錨ヲ改良スルコト

理由、現在ノ拘捉錨ハ機雷溜ニ於テ拘捉機雷ヲ遺棄スルニ不便ナリ繫維索切断ヲ目的トセス單ニ拘捉及機雷遺棄ニ便ナラシムル如ク改良スルヲ必要ト認ム

(終)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

大正八年十月八日　　龍驤艦長海軍少佐　力石敏三郎

掃海検定ニ關スル意見

一、實施規定ニ關スル事項

(一)一號掃海検定ニ於テ掃海用機雷ハ掃海區域内ニ敷設スル適當ト認ム

理由、單ニ鋼索切断能力試驗ノ為ノミナラズ掃海區域清掃ノ意味ニモ完全ニ合マシムルコト二號検定ノ場合ト同ジカラシムル為ナリ

又有浮標機雷ヲ切断スルハ艦艇ノ操縦ニ種ノ呼吸ヲ要シ風潮等ノ為メ或ハ切断シ能ハザルモノヲ生ジ或ハ第一鋼索ニ引切断セント試ムルモノ等ヲ生ズルノ憂アリ區域

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

清掃運動中任意ノ欠ニヨリ自然ニ切断スルモノニアラザレバ徹底セズ

(一)下二號検査共ニ装備及揚收屬今等一回トシ作業ノ總ツ成績ニ關係アルモノミトスルヲ可ト認ム

理由、成績審査上及作業進捗上必要ト認ム今回ノ如ク回數障ニ對シ回數ニヨリ失点トナリ或ハ然ラザル如キ事ナキヲ可ト認ム又揚收ノ現状ヨリ直チニ装備スルノ次ハ一種ノ費用ナレドモ装備用意ニテ一度充分ニ掃海ヲ整理シ然ル後装備ヲ行フ方基本ヨリシテ確實ナルヲ以テ此作業ヲ検査ニ入レザルヲ可ト認ム

(三)掃海區域清掃ハ三航過以上ト規定シアルヲ三航過ト改メ之ニテ清掃シ能ハザルトキハ失点トスルヲ可ト認ム

理由、作業進捗上及正確ナル運動法奬勵ノ爲ヨリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

但し今回一號掃海三航過ノ標準掃海幅三〇〇米ハ廣キニ過グルノ感アリ毎航過掃海區域ノ境界確實ニ重畳セシメントセバ三航過三〇〇米乃至二四〇米ノ適度ト認ム

(四)掃海區域清掃時間ハ掃海具投入ノ時ヨリ最終航過終了時迄トスルヲ可ト認ム

理由、掃海面進入時迄ニ種々故障ヲ生ズル場合アルヲ以テナリ又掃海面進入後ノ研究奬勵ノ爲ナリ

(五)二號掃海幅員測定法ノ項ニ両對艦ノ距離トアルハ正横距離ト改ムル方明瞭ト認ム又距離ハ乙艦ヨリ測定シタルモノニアキ様ニスルヲ可ト認ム

理由、對艦距離ハ乙艦ヲ調節スルノ原則トスルヲ以テナリ

(六)二號掃海ニ於テ對艦位置奇襲セラルコトハ甚ダ重要ナル事

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

頃ナルヲ以テ其敢後備位ニ對スル採点必要ト認ム

二、兵器改良ニ關スル事項

(一)大掃海具二號ニ關スルモノ

大掃海具二號ハ之ヲ使用スルニ二隻ノ艦船ヲ要スル割合ニ掃海幅少ナルノ憾アリ一層掃海索長ヲ増大シ必要ニ應シ便宜伸縮シテ用ヒ得ル如クスルヲ可ト認ム又如斯スレハ甲索乙索組合法ノ利用効果モ一層増大スベシ

(二)大掃海具一號ニ關スルモノ

(イ)鋏ハ使用前ノ試験ニ於テ切断能力優秀ナリ然レトモ格留鎖索切断ニ際シテ其拘捉状況ニヨリ其ノ能力ニ若シキ差アリ今回ノ検定ニ於テ切断不能ヲ生ジタルモノ少カラズ(鋏)刷形孤縁ノ両端形状及其取付用押

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

金ノ形状ニ就テハ一層ノ研究ヲ要スルモノト認ム

(ロ) 右側掃海索ノ圓塊部ニアル鋼線ノ捲被ハ二回使用セバ取レ去ルヲ以テ其後使用ニ際シテハ揚收ノ際鋏ハ夫ノ少前方ニ移動シ居ルモノ少カラズ鋏固定法改良ヲ要スルモノト認ム

(ハ) 機雷撃索維索ノ尾索ニ載カルモノ少カラズ如斯場合ニハ機雷ハ接續用鐵環ノ部ニ於テ沈降用或ハ同無索浮標深度索等ニカヽリ掃海索ノ方ニ移動セザルモノアリ故ニ接續用鐵環ノ部又ハ其附近ニ鹿角錨式鋏ヲ附スルカ或ハ接續用鐵環形状ヲ左圖ノ如キ形状ノモノトスヲ以テ要ト認ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(二) 最後ノ鈇ヨリモ後方ニ機雷ノ繋維索カヽリ展開用ヲ毀損セシメ或ハ展開状況ヲ不良ナラシムルコトアリ故用兵国ハ鈇兼用ノ固形体ノモノ等ニ改ムルヲ必要ト認ム

(ホ) 現用展開用浮標ハ浮量ナシニシテ回轉速力八節乃至十節ニテ投入スルモノ少カラズ浮量一九〇瓩程ノモノニ改ムルヲ可ト認ム浮標投入ハ掃海能力ニ直接影響ヲ及ボキモノニシテ水面ニアラシムルコトハ使用上最モ肝要ナルヲ以テナリ

三、雑件

(一) 大掃海艇二號ニテ拘捉シタル機雷ハ曳航中脱離セルモノ今回ハ一個モナシ要スルニ一度拘捉セルモノハ左ノ如キ特種ノ場合ヲ除キ容易ニ脱離スルコトナキモノト認ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

曳船中脱離ノ虞アル場合

イ) 敷設面ヨリモ甚シク深キ海面ニ突キ行キタルトキ

ロ) 海底岩石等ノ場所ニ曳行セルトキ

ハ) 敷設面ヨリモ甚タシク深キ海面ニ曳船シ速力ヲ緩ノ又ハ大角度ノ変針運動ヲ行フ場合

其他掃海索ニ浮上傾向ヲ與フル如キ行動ヲナシタルトキ

〔備考〕イ、敷設面ト水深大差ナキ場所ニ於テハ大角度変針等ノタメ掃海索ノ一部ニ浮上ノ傾向ヲ與ヘタル為メ一時脱離スルコトアルモ繰ヲ厳進曳船ヲ始ムレバ再ビ拘捉セラレ脱離ノ虞絶對ナシ今回ノ検定ニ際シテモ職、陽炎 十六号 変針中厳方障害物ノ多ク一時停止シ機留一個脱離ノ状ヲ呈セシモ再ビ完全ニ拘捉セラレタリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

但し如斯運動法ハ可成避クルヲ可トスルコト勿論ナリ

三、敷設間ヨリモ水深大ナル場所ニ於テハ最記ノ如ク脱離ノ虞ナシトセズ又拘捉ノ際多少ノ摺動ハ免カレザルヲ以テ之等ノ見地ヨリ拘捉ハ可成繋索離索ノ下方ニ於テスルヲ可トス仍テ普通掃海間ニハ最深ノ組合法ヲ用フルヲ可ト認ム

(二)大掃海具二號ニテ拘捉シタル時ハ傷今ノタメ對船針路ヲ外方ニ反轉シタル場合約七八割ハ脱離スルヤ後来考ヘラレタリ然レトモ今回ノ検定ニ於テハ殆ンド總ヘテ脱離セズ之ニ依テ見ルニ拘捉錨ノ位置ニ拘シタルモノハ針路ヲ反轉スルモ殆ンド脱離セズ今回ノ検定ニ於テハ拘捉後数次ノ大角度変針ヲ行ヒ且ツ機回数少ナキヲ以テ何レモ拘捉錨ニ拘シタルモノニシテ又往来行ハシタル実験ハ拘捉後ハ変針運動ヲ行ヒシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

コト比較的少ナリシモノト認メラル、

(三) 大掃海員二號揚收ノ際両對舷外方ニ約六呎変針シ距離六五〇米附近ニナリタル上後進ヲカケ同時ニ揚收ヲ開始スルトキハ掃海索弧ヲ直線ヲナスヲ以テ揚收作業甚タ宮易キヲ取リ危険少キノ利アリ

(四) 掃海用機器ノ繋索維器(錘量)ニ引揚索ヲ附スルニハ該索ハ二十八粍以上ノ鋼索ヲ用フルヲ可トス今回三吋乃至三吋半ノ麻索ヲ用ヒタモノハ切断セルモノ少カラズ又麻索ト三十八粍鋼索トヲ併用シテ繋ギテ使用セルモノハ其接合部ヲ切断セルモノアリ

(五) 検定掃海用機器ノ繋索維索ニハ結節ナキモノヲ必要トスルモ平素教練用トシテ供給セラレアルモノハ平素使用切断セルヲ以テ之ヲ流用シ難シ故ニ少クトモ一號掃海検定用

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

繊維類ハ別ニ配給セラレンコトヲ希望ス

(終)

0413

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

横須賀鎮守府附海軍大尉小川雄平

大正八年掃海検定ニ関シ意見

検定実施規程ニ関スル事項

一、掃海実施法ニ関シ

掃海具ノ装備及入ヲ二回ニ分ケ行フハ実際ノ場合遠カル感アリ且ツ時間、取扱ニ関シテモ其一部ヲノミ採点スルヲ以テ関係員ノ意義ニ曰ク分ケ影響アルノミナラズ作業進渉ニ対スル障害割トセス寧ロ一回乗航ヲ以テ全作業ヲ終ル如クスルヲ適当ト思考ス

二、駆掃海面ヲ成績ニ加味スルコト

現規程ハ各級指揮官技術ヲ十分ニ含アセザル方針ニ下成リタルモノナルヲ可ケレトモ掃海作業ハ大部分指揮官ノ

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

危険ナルモノ多シ

接触関係アリ人力離調査ノ餘地ナク且ツ請掃ハ掃海作業ノ最要事項トナルヲ以テ既掃海面ノ良否ヲ成績ニ加味スルコト至当ト認ム寧ロ直チニ戰闘掃海トシ実際的ニ之ヲ施行シ掃海員ノ検定ハ其関係スル部ニ就キ審査シ成績ヲ定ムルモ可ナルベシ

三、處分規程ニ関シ

一、既ニアリテハ繫維ヲ切断シ機雷ヲ浮上セシメタル時ヲ以テ處分完了ト見做スコトニ規程サルモ繫維索ヲ切断セズ浮上セストモ既ニ其目的ハ達シ居ル理ナルヲ以テ浮上セシメタルモノニ次キ相当ノ得点ヲ附與セサレハ公平ヲ失スルノ虞アリ

四、現規程及実施細目ノ不備及改正ヲ要スル点

(一)掃海隊員

掃海隊員測定特殊ヲ掃海區域出入ノ時期ニ於テスルハ無意

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

味、敵ニ座ス虞ヲ免レス、掃海區域運動中一定間隔ヲ精測シ成績ヲ調査スルヲ可ナリト信ス

(二)罷幅員測定法

一、艦ノ展開風浮標投入ノ時ハ他艦ノ展開風浮標ト見索ノ角度ニヨリ掃海幅員ヲ推定スルヲ可ナリトス

兵器ニ関スル事項

一、表示装置

表示装置ハ機留釣捉サルモ実航中ハ水面ニ浮揚セス尚改造ノ余地アリ副装置ニシテ投光器ヲ附シ該装置作動ト共ニ投光スルヲ可ナラン

其他必要事項

一、大型敷設艇乗組士官ノ役

艦艇運用及戦闘作業ニ対スル指揮官ノ配慮ニ関シテ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其型体ノ大小ニ依リ逐庭アルヲニ非ス然ルニ敷設艇掃海ニ当リテハ該指揮官ハ操縦、位置測定掃海其他ノ諸般ノ指揮対外通信ノ監督等所掌事項頗ル多キヲ以テ此等ヲ機宜ニ適応シテ処理スル指揮官ノ労ハ実ニ想像以上ニ属ス斯カル不備ナル状況ノ下ニ運用作業ノ高全ヲ期待スルハ不可能事ニシテ又従ヲ兵器ヲ活用シ其進歩ヲ促スノ所以ニ非ラサルナリ且ツ一兵科トシテ少壮士官ヲ訓練スルノ途ヨリ観ルモ其ニ乗組尉官ノ必要ヲ認ムルヲ以テナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

大正八年十月七日

陽炎驅逐艦長海軍大尉西川速水

大正八年掃海検定ニ関スル意見

(一) 検定實施規程ニ関スル事項

第一、検定ヲ戰闘掃海ニ改メ戰技トナスコト

検定規程ハ掃海員ノ技倆検定ニ拘束セラレ實際ト離隔セル点多シ 抑モ掃海作業ナルモノハ艦ノ運用操縦ト掃海員ノ技倆トハ両者相俟テ始テ全能ヲ発揮シ得ルモノニシテ両分スベキ性質ノモノニアラズ

故ニ戰闘掃海ト改メ掃海作業全般ノ技倆ノ優劣ヲ検スルヲ至當ト認ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

但防備隊ト駐屯隊トハ義部令規程ヲ異ニスル要ス

第二、賞與ニ就キ

成績優等ナル艦（若ハ隊）ニハ褒状ヲ授與シ該作業中掃海員ノ技倆ニ係スルモノヽミノ採点ヲ集合シ其ノ成績優等ナル掃海員ニハ賞品ヲ授與スルコト

第三、戰闘掃海トシテ實施法

編隊ト與ヘラレタル想定、状況ノモトニ實施スルコト

第四、実施規程第三條中

驅逐隊速力一節八浬以上ヲ九浬以上ニ二節十浬以上ヲ十一浬以上ニ改ムルコト

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第五、第九條中

(イ)、運動時間ヲ一時間三十分トシ掃海具投入ヨリ掃海面ノ清掃三航過ヲ終ル迄ノ時間トナスコト

(ロ)、二十度以上ノ大角度轉舵ヲ除スルコト、運動中ニ大角度轉舵ハ屢々施行スルヲ以テナリ

(ハ)、第一回ノ揚收ヲ止メ直ニ引キ続キ運動後機雷ヲ處分スルコト

第六、第十一條採点標準中

(イ)、装備時間ヲ二時ニアリテハ十分ニ短縮スルコト

(ロ)、深度ハ深度計ニ依リ掃海面航行中ノモノ全部深度表示圖ニ依リ審査ノ上減点ヲ附スルコト 猶掃海面掃海中ハ屢々深度ヲ測定シ深度計不作動ノ場合ニ備フルコト

(ハ)、掃海幅員ハ毎二分毎ニ測定シ点数ヲ附スルコト

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(二)、揚收ハ狀況ニ依リ採点ヲ附セザルコト　之レ機雷拘捉等ノ狀態ニ依リ同一狀況ナラザルト實際ニ於テ揚收ハ緊急ヲ要セザルコト多キニ依ル

但索具ヲ推進機ニ捲纏セシ等其ノ他ノ故障ニ對シテハ從來通リ減点ヲ附スルコト

(ホ)、處分法ハ一歸ニアリテハ三航過ノ後揚收スルコトナリ次テ拘捉切斷處分ヲナスコト

第七、第十三條中同点ノ際ノ順序

一、處分機雷ノ多キモノ

二、拘捉機雷ヲ感知シタル數多キモノ

三、取扱ノ得点多キモノ

四、掃海課度ノ得点多キモノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

五、掃海面清掃時間ノ短キモノ

第八、一隻ニ隻掃海ヲ通シ装備、投入、揚收ヲ一回トナスコト
二回ニ別ハ徒ニ作業ヲ複雑ナラシメ且實際ニ遅カレハナリ

第九、既掃海面ノ適否ニ依リ得点ヲ附スルコト
既掃海面ノ作圖ニ依リ得点ヲ定メ其ノ適否ニ依リ減点ヲ
附スルハ實際ニ於テ清掃ノ良、不良ノ影響ニ處大ナレハナリ
本検定ニ於テモ其ノ面ノ適良ナラザルモノアリタリ之等ニハ其ノ
範圍ヲ定メ減点ヲ附スルガ至當ナリ

第十、投入時間ヲ信號降下時若ハ発令時ヨリ始ムルコト
投入ハ二隻ニアリテハ信號降下ト共ニ常端度援ノ運動開

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

始時ヨリ又一歩ニアリテハ艦橋ヨリノ令ニ依ルヲ至當トス殊ニ一歩ニ於テハ艦ノ運用ニ待フコト大ナリ、抑モ掃海作業ハ迅速確實ヲ要スルモノナルヲ以テ而艦ニ於テ索端度捜等ノ失策及艦ノ運動法ノ盛速巧拙ハ規定時間内ニ合マシムルヲ適當トス

(二) 實施要領ニ關スル事項

第一、要領ニ就キ

第一掃海面ハ横浜出入ノ船舶航路上ニアリ故ニ通航船舶ノ為ニ運動ヲ阻害セラルヽコト多シ

故掃海面ヲ三鍵乃至四鍵西方ニ偏セシムルノ必要アリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第二、掃海面設備ニ就キ

一、掃海面標識用航路浮標ハ第八驅逐隊ニ於テ凡テ準備スル如キ規定セラレアルモ各艦ニ於テハ多數ノ浮標ナシ為ニ錘量、索具等ハ各艦區々ニシテ一定セズ殊ニ錘量ニハ鉄塊若ハ石塊ヲ附シタルモノアリテ潮流、風等ニ依リ其ノ位置ヲ変セシメラルヽコト多シ

故ニ索具等ハ凡テ需品庫貸與ノコトニ定メラルヽノ必要アリ

二、掃海面標識用航路浮標ヲ小艦艇繋留用浮標ニ替ヘ一定ノ期間常設シ置クコト

理由

(イ)現用浮標ハ如何ニ適當ニ設置セラルヽモ風ニ對シ又殊ニ南北海面ノ如キ潮流強キ地區ニ於テハ多少ノ変位ハ免レス故ニ固定的ノ浮標ニ替フルノ必要アリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(四)、本検定用浮標ハ毎早朝出動シ毎日設置セザルベカラズ

依テ該作業終了後続イテ検定ヲ施行セラルヽニヨリ該艦ノ乗員ハ早朝ヨリ作業ニ従事シ為ニ専心検定準備作業ヲナス能ハズ、出港後直ニ検定実施ヲナシ得ル如クセバ

前記常置ノ浮標必要ナリ

(八)、掃海面標識用浮標ハ既掃海面測定ノ基礎タルベキモノニシテ其ノ位置ノ正確ヲ要求スルコト切ナリ然ルニ今回ノ如キ浮標ヲ以テシテハ毎日其ノ位置ヲ変スルノミナラズ朊朝等ニ依リ時々刻々変位ヲ来ス虞アリテ既掃海面精測ヲナス能ハズ

故ニ前記固定的ノ浮標最必要ナリ

第三、機雷標示装置ニ附キ水製浮標ヲ除去スルコト

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

二掃海具ニ於テハ拘捉セル機雷ハ途中ニテ脱離スル等ノ憂アリトナシ且機雷走標ハ製量アルヲ以テ該木製浮標ハ其ノ要ナシ然ルニ該浮標アルガ為ニ遠クヨリ機雷位置ヲ認識シ得ルヲ以テ実施上反テ不利ノ点多シ

第四、実施期ヲ七月若ハ夏季休暇以前トナスコト

本年度ノ如ク休暇後トナス時ハ休暇ノ為ニ切角ノ訓練ニ一時途絶シ其ノ技術ハ鈍ルヲ覚ユ且乗員ノ交代等ヲ繰出シ翌年度末ニ近ヅキ諸作業集積シ多忙ヲ極メ研究ニ不利ナリ故ニ休暇以前ニ施行スルヲ最良策ト思考ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(三)、兵器ノ改良ニ関スル事項

第一、一號掃海具ニ就テ

(イ)、掃海索ハ百五十米一條ノ鋼索トシ以テ纏揚ヲ生ン易リ且取扱保存並ニ格納上極テ不便ナリ従来ノ通リ接続スハ如キ装置ノ便トス

(ロ)、展開風浮標ハ百五十キロニテハ浮力小ニシテ曳航速力八節以上ニ及ブ時ハ沈降ス故ニ百八十キロ若ハ二百キロニ改造ス要ス

(ハ)、鉄板附用固定片螺子、押金ハ掃海索端ノ鉄架ハ破損スルコト多シ製作ヲ強固ニスルヲ要ス

第二、二號掃海具ニ就テ

(イ)、掃海索浮標ノ接続用鉄架(眼環鉤環附○部)ハ十二節以上ノ速力ニ対シテハ切断スルニ付強固ニスルヲ要ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

(四)、浮標ノ肩部ハ拘捉鋼ト撃衝ニツキ損シ易シ強固ニスルヲ要ス

(ハ)、掃海索ト尾索ノ接合用鉄架ヲ二個ノ鉄架ニスルヲ要ス

之レ尾索石木ノ拠ハ一方ニノミナハ戻リ切ズシテ掃海索ノ方ヘモ無理ヲ及ホスニ至ル尾索端ノ赤浮標ノ鉄鏈ノ度々毀損スルハ之ニ依ルコト多シ

(ロ)、浮標用鉄鏈ハ猶一級ニ堅固ニスルヲ要ス

(四) 其他必要事項

第一、掃海具ヲ各艦ニ供給セシムルコト

現在掃海具ハ凡テ隊供用ノミノトナリフリ各艦宛ニ供給シ居ラズ故ニ仮設係留等ニ充テ一級ニ粗漏ニ陥リ易シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第二、左記品目ノ消耗品トシテ供給スルコト

(イ)、鉄架用割栓

(ロ)、掃海索補修用鉄線

(ハ)、掃海索補修用及懸吊用「スパニヤン」

(ニ)、防錆油

第三、左記品目ノ備品トシテ供給スルコト

(イ)、三輪掃海索端受授用「リーピングライン」四十粍麻索石索

(ロ)、特製釣環（受授用「リーピングライン」ニ附スベキモノ）

（終）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

有明駆逐艦長海軍大尉山本弘毅

大正八年度掃海検定研究項目ニ對スル意見

一、検定實施規程ニ関スル事項

(イ)第九條ニ於テハ二号掃海實施ハ一旦裝備投入後揚收スルヿナク其侭直チニ掃海面ニ進入シ掃海並ニ處分法等ヲ一切同時ニ検定セバ實際的ニシテ且ツ時間ノ節約ヲ計ルヿトナルベシ

只斯クセバ揚收ノ技倆ヲ検定スルニ不便ナルモ揚收ハ掃海検定中尤モ重大視スベキモノニ非ス已ムヲ得ザレバ之ヲ犠牲ニ供スルモ差支ナキモノト思考ス

(ロ)第十条採点標準中(取扱)ニ於テ兵器ノ毀損ガ明カニ機雷拘束ノ結果等不可抗力ニ起因スルモノハ減点セサルヲ至當ト思考ス

(ハ)大正八年掃海検定實施ニ関スル細目第六項中一号掃海具

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ニテ機雷ヲ拘束シテ一分間以上経過後機雷浮出セサル中ハ切断無効ト見做スト雖モ實際ニハ該時間経過後切断浮出スルモノ往々アリ然カモ浮出時間ノ長短ハ切断効力ヲ左右スルモノニ非ス故ニ斯ノ如キ時間ノ制限ハ全ク必要ナキモノト認ム

二、實施要領ニ関スル事項

第七項中掃海面標識用航路浮標ノ設置ニハ駆逐艦ニ於テハ材料ノ貧弱ナルト人手ノ不足ニ基キ完全ナル期シ難シ港務部ニテ施行セバ良好完全ヲ期シ得ヘシト信ス

三、兵器ノ改良ニ関スル事項

(イ)一号掃海具ハ機雷切断力尚不充分ニテ今回ノ検定ニ徴スル益〻其ノ機構ノ改善ノ急務ナルヲ感ス

(ロ)一号掃海鈇用浮標ノ取付ハフレヤッタル」ヲ以テセス二号ニ於ケルガ如ク着脱容易ナル「フック」ヲ以テセバ装備揚収ノ取扱上便宜ヲ得ル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

07

大ニテ兵器ノ毀損ヲ減少スルモノト認ム

（終）

海

軍

0432

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

大正八年十月五日

朧泰組海軍大尉　金子豊吉

掃海檢定ニ於ケル攻究事項ニ對スル意見

(一)檢定實施規程ニ關スル事項

一、檢定掃海施行回數ハ毎年二回以上トスルヲ可ト認ム

二、大掃海具一號掃海檢定ニ於テハ掃海區域内ニ處分スベキ機雷ヲ敷設シ置クヲ可ナリト思考ス

理由

掃海檢定ハ掃海員ノ技倆檢定ニ非ズシテ掃海關係諸官ノ技倆ヲ檢定スルニ在リ故ニ艦船操縱者ガ掃海區域内ヲ遺漏無ク掃海シ居ル間ニ拘捉セル機雷ヲ處分シ得ル如クナスヲ要シ掃海區域外ニ敷設位置ヲ明示シ在ル機雷ニ對シ是ガ拘捉剪斷ノ目的ヲ以テ航過セシムルガ如キハ稍平素ノ訓練ト

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

相距ル如ク思考セラル

三、大掃海具一蹄検定ニ於テ標準装備時間十五分ハ稍短キニ過グルト思考ス

理由

格納状態ニ分離シ置キタル掃海具ヲ標準時間以内ニ装備シ終ラントセバ作業粗雑トナリ掃海索取付用押金ノ螺釘等ハ毀損シ易ク従テ兵器ノ命数ヲ短縮セシムル恐アルヲ以テナリ

四、一度装備投入シタル掃海具ヲ揚收シテ更ニ是ヲ装備投入スル二段ノ作業ヲ行フヲ止メ一旦掃海具ヲ投入セバ其儘機雷覆分ヲ行フ方可ナリト思考ス

理由

機雷覆分台ニ於テモ取扱ヒノ不注意ヨリ惹起セル掃海具各部ノ故障ハ是ヲ知リ得ベク且ツ検定ニ要スル時間ヲ短縮少シ得ルノ利アル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ヲ以テナリ

(二)検定實施要領ニ関スル事項

一、既掃海面審査委員ハ各組ヲ二名ト定ムルヲ可ナリト認ム

理由

既掃海面ノ審査ハ掃海區域標示浮標ニヨリテ測定セル掃海艦ノ位置ト掃海幅員トニヨリテ決定セラルヽモノナリ此両者ヲ一名ノ委員ニテ分擔スルハ困難ナリ

尚技術検定ニハ直接関係無キモ掃海術進歩ノ為ニ該委員ニハ次ノ作業ヲ擔當セシムル事ヲ希望ス乃チ時々誘導ノ展開幅或ハ對艦巨砲(二)歸ニアリテハ尚是レニ加フルニ甲乙両艦ノ齊頭ナルヤ否ヤ)ヲ測定シ是ト深度計ノ深度表示圖トニヨリテ真ノ掃海面及ビ掃海具ノ状態ヲ一見知悉シ得ル如キ圖ノ作製ヲ希望ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

二、掃海幅員ニ面ノ測定ヲ以テ全般ヲ推スハ稍粗略ノ感アリ掃海艦掃海區域内ニ在ル間常ニ之ヲ測定スルヲ可トス

三、大掃海具一歩検定ニ於テ展開用浮標没入ニテ見エザル時ハ是ニ對シ減点スルヲ至當ト思考ス是レ該浮標ハ掃海具ノ調整適良ナル時ハ没入セザルヲ常態トスルヲ以テナリ

又規定速力ニテ該浮標没入シ展開幅ヲ測定スル能ハザル時ハ浮標ノ水面ニ表ハルヽ迄減速ニテ之ヲ測定スルヲ至當ト認ム

四、掃海具揚収ノ際兵器ヲ毀損シタルモノニ對シテハ減点スルヲ至當ト思考ス

(三)掃海操式ニ関スル事項

一、大掃海具一歩装備操法ハ最初ニ展開用ヲ吊下スルヲ可ト思考ス

理由

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

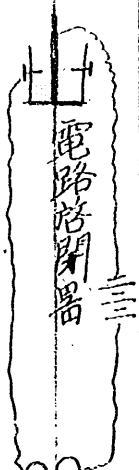
展開風ヲ最初ニ吊下スルニ非ザレバ三等驅逐艦ノ如キ艦尾狹隘ナル者ニ在リテハ作業困難雜ヲ極メ從ツテ其構成ヲ誤リ易ク又裝備ニ比較的長時間ヲ要スルヲ以テナリ

二大掃海具ニ綱ノ投入操法ニ於テ浮標ヲ流シテ掃海索ヲ授受スル者ヲ制規ノ方法トシ サンドレットニ依ル法ヲ別法トスルヲ至當ト思考ス是レ後者ハ艦ノ操縱困難ニシテ海上靜穩ナル場合ニノミ行ヒ得ルモノナルヲ以テナリ

(四)其他ノ事項

水檢定中本艦ニ於テハ機雷拘捉感知法トシテ水雷學校考案ノ聽覺ニ依ルモノヲ使用セリ其構成並ニ成績次ノ如シ

耳聽器電路



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

電路啓閉器ヲ尾索内端ニ縛着シ尾索ノ振動ニヨリ電路ヲ開閉セシメ其音響ノ變化ニヨリ拘捉ヲ感知ス

成績

大掃海具一隻ニ於テ機雷ヲ拘捉剪断セシ場合

(A) 機雷拘捉ノ時ハ耳聽器ノ音響少クナリ繫維索剪断後舊態ニ復シ其區別ハ明瞭ニ感知シ得タリ此時際ニ於ケル張力計ノ變化ハ機雷拘捉前二〇噸ヲ示シ拘捉時ニ五噸ニ增加シ繫維索剪断後二〇噸ニ低下セリ

又機雷並ニ附セル浮標ニヨリ繫維索剪断ノ模様ヲ推察スル最初ハ繫維索掃海鋏刃ニ挾マリ其一部ヲ剪断セルノミニテ暫時機雷ヲ曳航セル後全部切断セスルニ至リシモノヽ如シ

(B) 機雷ニ對シテハ張力ハ(A)機雷ト殆ド全様ニ變化セシモ耳聽器ノ音響及對ニ繫クナリ剪断後舊態ニ復セリ機雷並ニ附セ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ル浮標ニヨリ推察スルニ機雷繋維索ハ掃海鋏ニ達シ掃海索ニ捉
拘セラレ漸次滑リテ鋏刃ニ至ルヤ直ニ剪断セルモノヽ如ク耳聽器ノ音
響繁クナリシハ繋維索ガ滑リ居ル間尾索ノ振動ヲ増加セシ
モノト思考セラル而シテ張力計ノ変化ヨリ耳聽器ニ感スル振動
ノ変化ノ方早クヽ之ヲ感知シ得タリ
(C)機雷ニ對シテハ張力計ハ〇、五噸増加シ其後暫クニシテ〇、二五
噸低下セシモ機雷繋維索ハ掃海艦停止スル迄ハ剪断スル能
ハズ耳聽器ニ感ゼシ音響ノ変化ハ機雷拘捉時ハ音響
繁クナリ其ノ後舊態ニ復セリ
大掃海具ニ帰ニテ機雷ヲ拘捉セシ場合
機雷一個拘捉セシ時耳聽器ノ音響低下シ二個拘捉ノ場
合音響絶無トナリ再低感知シ得ザルニ至レリ
以上ノ實驗ニヨリテ見ル時ハ耳聽ニヨル機雷拘捉感知感

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

知者ノ経驗ヲ積マシムルハ大イニ有効ナルモノト認ム

（終）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第八駆逐隊吹雪乗組海軍大尉 山田義一

掃海ニ関スル意見

大正八年掃海検定實施規程ハ掃海術教育方針ト共ニ変更スベキモノナルヲ以テ過渡期ニ於ル掃海検定實施規程トシテハ適當ナルモノナリ感レモ将来ニ於テハ基本部ニ於テ個人検定ヲ行ハシメ戦闘掃海ハ部隊毎ニ其ノ全部ヲシテ施行セシムルヲ要スト思料ス

其方法トシテ別ニ想定ヲ與ヘ部隊ヲシテ一地区ニ於テ全掃海ヲ取サシムルアリ之レ水域ノ研究、設標、掃海具ノ調整、組合ノ操定其他計畫實施ヲ行ハシメ得ル利アリ。

第一 検定實施規程ニ関スル事項。

(1) 兵員教育ハ作業ニ熟達セシメ其目的ヲ達スルニアリ而シテ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

機雷ノ電路ニ関シ更ニ考慮ヲ要スル点少ナカラズ

○

機雷ハ其性質上動ク敵ヲ敵トシ苟モ敵方ノ手段ニ於テ其実ハ心情誤解等ヲ起サレタルガ如キハ之ヲ避ル有ル。

一例ヲ以テ申セバ機雷処分ニ於テ切断不能ノ運動法ニ於テ航過不定等ヲ船長ノ技倆ノ如何ニ帰シ而カモ其附属実数ハ其実ノ実況ニ関係アリ以テ船長ヲ批判スルニ至ルガ如キ之レナリ。

(ロ) 個人検定ヲ其本部ニ於テ行フニ当リ其装備取扱技術切断能力揚収ノ状況ヲ検定スル所ノ

切断能力揚収ノ出来得ル限リ個人技倆ヲ検定セシ得ル様計画スルヲ要ス

(ハ) 実施規程第二條

第二條施行ノ艦種範囲ヲ広ムル事実戦ニ鑑ミ直チニ之ニ応スル備ヲ要スル点ニ於テ特ニ止ムヲ得ザルモノ外掃海可能ノ海軍艦船ニハ之ヲ実施セシムルヲ要ス其意蘊奥

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ヲ極ムルニ至リ難ナルベキモ實用ニ対スルノ程度マデニ達セシムルハ掃海ニ於テ比較的短日月ニテ可ナルヲ見ル實施困難ナラズト思考ス

第三條

掃海具ノ使用範圍

大掃海具ノ一號検定ハ特別部隊ノ外ハ行ハサル事

事實上艦隊附屬等ノ艦船ニテハ一號使用ハ到底不可能ト思フル教練等ニ於ケル亡失毀損修理ハ行動上之ヲ完全スル事困難ニシテ戰術上ニ於ケル用途モ少ナキモノト思考ス

第九條

掃海検定裝備授入揚収屬分ヲ一時ニ連續行フヲ適當ト認ム揚収ハ揚収時ニ於ケル取扱ノ如何ヲ見ルニ止メ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

機雷掃海ノ為メニ意図スル時間ノ延引及ビ其レニ起因スル故障等ハ之ヲ検定ニ入レサル程度ニ為スヲ可ト認ム

陸ニ技術以外ノ（ファクトル）ヲ加味シ検定感念ヲ薄カラシムルハ過ギクルヲ要ス

尚ホ能力検定モ若干時間延期ノ後ニ有効ナラシムルヲ得バ却テ調整技術ヲ確認スルヲ得ヘシ

第十條

掃海具ハ補用品ヲ使用スル事ヲ得セシメ別ニ補用品トシテ定メ置クヲ至當ト認ム　但減点事項ヲ設ク

第十一條

一般ニ軍動切断能力ニ対スル所要兵数ハ通常ノ大部分ヲ占ムルニ鑑ミ個人技術検定トシテハ出来ルダケ検定方法ヲ改ム兵数ヲ減ジ装備投入ニ制キ與フルヲ適當ト思

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ワル

第十三條

優劣ノ決定標準ハ極メテ穏當ト思考スルモ尚ホ別方面ヨリ見テ一、五ヲ削リ九ノ如ク順序ヲ定ムルモ可ナリト認ム

四ヲ一　二ヲ四

七ヲ二　三ヲ五

六ヲ三

其ノ理由トシテ項数ヲ少ナクセルハ事實上先ツ充分ノ認ノ其他ハ個人技倆ヲ主トシタル見地ヨリ考ヘ見タル時ニ適當ト認メラレバナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第二 實施要領ニ關スル件

イ、三、施行順序ハ之レヲ定ムルニ當リ天候地方的氣象ニ鑑ミ

一、二、麗ヲ行フ向ニアリテハ午前午後各艦トモ一隊ニ行

フ如ク計劃シ、第一第二回トモ午前中又午後ニ偏ル

ヲ避クルヲ要ス

三、一日ノ施行回數ハ二回トスルヲ至當ト認ム

ロ、六、掃海面ノ設備ハ半永久的ノ設備ヲナス事

使用材料、宮藏雷金、鋼線網、火薬量、

種々一、掃海面ノ不備ハ掃海運動ヲシテ無意味ニ終

ラシム、

二、設標艦ハ常ニ午後掃海艦ヲ使用スルノ止ムナキ情

況ニシテ軍朝ヨリ幾多ノ勞役ヲナシ中間不規則ナ

ル休憩ヲ行ヒ折角緊張シタル精神ニ倦怠ヲ生

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

スルハ実際上難リ得キ事ナリ、

三、尚ホ設標後ノ修正並ニ浮標間ノ位置測定等ハ到底時間内ニ行フヲ得ズ遂ニハ暴流ニ流ルルニ到リ當初ノ目的ヲ達スル事能ハザラシム、

四、設標ノ流没流失毀損等ハ数次ノ捕収検入ニ於テ其ノ数僅外ニ多クシテ船舶等需品定額ナキ所ニ於テハ之レヲ最モ大ナル苦痛トシテ、切ニ半永久的設備ヲ希望スルモノナリ、

因ニ本艦ニ於テハ使用材料竹樺三、携片三、浮標、籠標等ハ三十二等ノ病室、四隅之等ノ内南後検定終了後受度シチルモ各三人ノ一ニ過ギズ

五、早朝出動ノ為メ等ヲ、時間ノ通告ヲ豫猶ノ得レト

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

スベ時機ヲ失ハル朝霧、夕霞等ニヨリ、位置不明等ノ障碍アリ。適良ナル設標ヲ設ケ得ザルニ至ル之等諸想ニヨリ施行法標ヲナスヲ望ムモノナリ。

尚検定員等ノ意氣込等ヲ考慮シ、施設ノ大規模ナハ却テ有利ナモノト認ムル。

然レドモ 只茫ニ不安トスル航路ニ常ノ数個ノ設標ハ少ク顧慮ヲ要スル。當直船ヲ終夜航スルト雖モ、数週間ニ亦ニ此ノ水路ハ出シ置ク共ノ顧慮ハ少キモノト思ハル。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

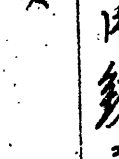
三、兵器改良ニ関スル事項

兵器改良ハ幾多議論スル處アルモ現存兵器ヲ最有効ニ使用スル為西安スル事ハ目下ノ急務ナルベシ。

一號

接合部並ニ不安定ノ個所ヲ少ナクシ且ツ脆弱部ヲ強靭トナス、

イ、現用鋏ヲ廢シ三ツ目トシタル「アクチオン」式折断器ヲ採用ス



ロ、揮海索ノ中間ニ轉環部ヲ設ク、（一五〇米）

ハ、現用凧ヲ三角凧又ハスボン式凧ニナシ強度ヲ増スニ沈降凧ノ強度ヲ大トナシ其ノ錘量ハ凧ノ下方ニ附着シ各別トナサザル事。（不安定ノ度ヲ減ズ）

ホ、各種浮標ノ形状ヲ改メ 型トナス（沈入ヲ防ク）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ト展開浮標ノ錘量ヲ二〇〇キロニ増ス事

ヘ、数次ノ実験ニヨリ従来ノモノハ少シク軽キニ過クルモノト認ム取扱ニ於テハ別ニ大ナル差違アルモノト思ハレズ。

二號

イ、鈎捉錨ノ数ヲ五〇米ニ付キ二個ヲ減シ其ノ形状ヲ改良シテ反轉離脱ヲ易カラシムル事。

今回ノ検定ニ於テ鈎捉錨ヲ以テ機雷並又索ヲ鈎シタルモノ五ケ中三ケヲ見タリ海底面不齊ノ場合ニハ機雷上下左右ノ揺動スルト見テ穏當トシ、鈎捉錨ヲ存スルトセバ三ケニナスヲ可ナリト認ム。

ロ、各種艦艇ニ應シテ掃海索ノ長サヲ変更シ得ル如ク

其ノ他

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

三等駆逐艦三隻 一〇〇〇米ノ掃海艦ヲ有セシム

ルニアリ。（掃海索部長）

二等駆逐艦 一〇〇〇米

三等駆逐艦 八〇〇

小艦艇 五〇〇

外ニ両側尾索トシテ 三〇〇米

斯クスレハ、深度ノ不整ヲ来ス恐アルモ之等ハ掃海索組合ニヨリテ適當ニ修正セシメ得ヘシト思料ス取扱ノ不便ハ尚ホ実験ノ必要アリト認ムレトモ現在無器ト大差ナカルヘシ

八、

浮標ノ層掃海索ニ近ツケ掃海中ノ動揺等ヲ防止スルト共ニ尚ホ構造ヲ強固ニナス事。

揚収後浮標ノ底部ヲ検スルニ著シク凹凸ヲ見ル之ハ鋼環鉄鎖部ノ長サニ欠点アルモノト認ム寧ロ極メテ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

接近セムレハ取扱ニ稍相違ヲ来スヲ可キモ、既損並ニ
海下要ノ抵抗ヲ減スル得テ浮標流失ノ機會ヲ少ナ
カラシム而シテ其ノ構造形状ニ考案ヲナシ、一層水中抵
抗ヲ減スルノ手段ヲ取ルヲ至當ト想ム。

四、特ニナシ（八隊意見ノ如ニ提出済ミ）

五、掃海ハ其ノ性質上運用術ニ属スルコト多ク殊ニ將来普通
海員ヲ以テ行フノ期アルヲ必ス思ヘハ、簡単ニシテ然カモ実施
回数ヲ増シテ以テ安全率ヲ高ムル掃海具ニテ満足セサルベ
カラスト雖モ普通部隊等ニテハ尚ホ現用掃海具ヲ必要
トスル機會多シト思考スルヲ以テ當分教育方針ノ確
立ヲ期シ。駆逐隊ノ副業トセシメズシテ、當面ノ任務トナシ特
ニ配置ヲ設ケ少ナクモ掃海員編制骨子タル数名ヲ之レ
ニ配置シ兵器ノ保管ト報ヲナサレハルヲ至當ト想ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

特殊ノ如キ曖昧ナラシメサル事ヲ要ス　検定ハ宜シク能
適アルモノニ課スヲ最モ必要ナル事ト思考ス。
機雷掃海ハ現ニ海軍部ニ於テ必要ト認メ作ラシニ
就ケントスルモノハ僅少ナリ其ノ多クハ將来ノ保證如何ニ起
因スルモノナルヲ思ヘハ制度ノ変更ナナシ續イテ機雷掃海部員
ヲ養成スル目下ノ急務ナリ兵員ニ於テモ人員ノ流動スルノ
編組ヲ行ヒ兵員ノ將来ヲ保證シ機雷部員掃海部
員トシテ特修兵ヲ養成シ之ニ附兵スルニ他特修兵ト同
シキ待遇ヲ以テ始メテ機雷掃海ニ關スル實績ヲ揚ケ得
ルモノト思料ス。

（終）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

0454

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第4

掃海検定ニ關スル意見

本年度掃海検定ハ掃海関係各員ニ對スル仗倆検定ノ目的ニ副ヒ實施ノ方法亦概ネ適良ニシテ掃海術ノ發展上効果尠カラサリシト雖當今機雷ノ顕著ナル進運ニ伴ヒ一層ノ進歩ヲ促サンカ爲其ノ規模ヲ擴大シ且最實際ノ状況ニ近似セル方法ヲ以テ戰闘掃海ノ制ヲ設ケ掃海ニ関スル戰闘能力ヲ練磨講究スルノ必要アリト認ムルモノナリ

蓋シ掃海ノ能否ト効果ハ主トシテ掃海艦艇指揮官ノ運用操縦ニ對スル仗倆ノ巧拙ニ歸著スヘシト謂フモ敢テ過言ニ非サルカ故ニ成績ノ審査上重キヲ既掃海面ノ清否並機雷處分ニ置

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

キ以テ掃海能力ノ優劣ヲ査定セハ最適切ナル伎倆ノ検定法タルノミナラス又斯術ノ向上ヲ保進スル一助タルヲ得ヘキナリ

戦闘掃海ハ教育年度ノ後半期ニ於テ一回之ヲ施行シ之カ實施ノ要領ハ指示掃海面ノ延長ヲ二浬若クハ三浬トシ其ノ間一、二回ノ屈曲度ヲ附シ大掃海具二號ハ勿論一號掃海ニアリテモ尚掃海面内ニ無標識機雷ヲ敷設シ成ルヘク掃海隊ヲ編組シ以テ掃海具ノ長距離曳航ヲ行ヒ能力ヲ考査スルニアリトス而シテ本年度實施ノ掃海検定ハ装備投入曳航中ノ状態揚収並處分等ノ作業ヲナシ掃海具ノ取扱法ト處分法ヲ區分シタル局部的検定法ナルカ故ニ多少ノ修補ト共ニ掃海員各個ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

習得程度ヲ考察シ且其ノ伎倆ヲ査定スヘキ検定掃海トシテ適當ナルモノナリ

検定掃海ハ毎月又ハ二ヶ月毎ニ一回基本部ニ於テ之ヲ實施シ尚教練掃海成績ヲモ加味シテ一教育年度ノ成績ヲ審査シ相當表彰ノ途ヲ講セハ砲煩魚雷其ノ他ニ於ケル検定作業ト均衡ヲ保持シ斯術ノ普及進歩ニ資スル所亦大ナルヘキヲ信スルモノナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/